

東北日報

本紙は毎月二十日発行
郵政省第三種郵便物
社団法人東北日報社
石城郡平野町
電話四〇番

幹事長に不満で 野峰氏を推薦す

石城民政部有志會

来るべき選挙選挙協会の
石城民政派漆畑、山野邊、
安藤三辯護士の主催にか、
同黨有志會は十九日正午
から平野町前丸清旅館に於
て開催した。

各町村の有志約百名

出席漆畑氏座席につき協
議の結果満場一致を以て求
るべき選挙には現職野峰
満蔵氏を推すに決し更に右
選挙に當つては黨の統一が
第一とし昨秋の縣選の會員
問題のもつれその他の關係
から石城部會が

問題となつた 自宅の準備教授

有産家庭の常習手段

は極力警戒する方針

中等學校入學試験期もいよいよ地獄の再現を憂慮されつゝ、
二ヶ月の後に切迫し本あるが中等學校當局が筆記
年より試験方法が改正され試験を主とする結果嚴禁の
筆記試験を重視する即ち舊準備教育をなすもの多く模
制度に
復活したかの如き觀隠れて依然として止まざる
を呈するに到りしため試験状態で學務當局においても

これが對策には頗る
腐心してゐる而しこ
れ等のうち比較的有産階級
に屬する家庭の兒童は志望
入學中等學校の教師の許
出入して準備教育をうけて
をり識者の間に非難されつ
つあるが中等學校教諭の許
に出入する兒童は所謂ブル
ジョアの家庭の者に多く公
正なる試験制度の前に由
々しき社會

犯人捕はる

昨夜四倉署員に

頃同町を徘徊する年約四十
歳前後の舉動不審の男を取
り本署に引致の上極秘裡
に取調べ中であるが探聞す
るに同人は長野縣生れの齋
藤正直(四〇)と稱する山形
山下町で可成り大仕掛けに礦
山詐欺を働いた犯人らしい

三十七名からの 大賭團一味檢舉

昨日平署員の手で

茨城、若松方面の者もある
平町搦搦小路吉田廣三郎方
で軍鶏を闘はし夢中になつ
てゐる博徒平町中田町木炭
商坂本某外三十七名を一人
残らず逮捕球數つなぎにし
て本署に引致目下嚴重取調
中であるが右の
連中には會津方面或
は茨城縣方面と可成り遠方
現場に急行多額の金を積ん
だから来たものもある

帳簿を備へて 表面は鶏賣買業

白晝公然と大賭博

平町では別項の如く博現したが白晝大膽にも屋外に
行犯として三十數名を檢舉於て公然開帳してゐるだけ
に連中には相當の用意があ負け勝ちを計算してゐたも
りどの程度の犯罪を構成するのであるなほ平署では三十
に擔ぎ込み手當中であるが
か頗る興味あるが一同は七名の右犯人等と二十數羽
表面鶏賣買業者の如く装ひの軍鶏で大賑ひを呈して居
る
賣買商なる帳簿を備へ巧に

メイの亭主を半殺し 金を貸して呉れぬとて

植田在の亂暴な叔父さん

石城郡荷路夫村大字宿井前らの火鉢から火はしをとり
堀内鐵平(六五)は十九日午
あび冬吉の左眼へ突き差し
更に顔面數ヶ所に頻死の重
傷を負せられた
前八時頃
自分の みの亭主同
傷を負せられた
植田村大倉山田冬吉(四九)
方へ赴き金を貸してくれと
申込んだが冬吉は都合が悪
いからと拒絶した處鐵平は
義理も情けもない奴だと傍
下取調べ中

悪性の感冒流行し 小學兒童欠席續出

郡下各學校では豫防に腐心

最近の天候は全く變化が激大盛況を呈してさすがに一
しいためか石城郡地方に悪
性の流行感冒がしやうけつ
を極めてゐるそれが爲め小
上の成績を納めて締切つた
温泉水旅館で
未遂だつたが大騒
石城郡湯本町温泉旅館山形
屋方に三日前より止宿中の
會社員山本庄次郎(二九)は
十九日午前八時ごろ小型の
ナイフを以てわねとわが心
を苦悶中を旅館の女中が發

牛久洋服大盛況

平町牛久洋服店では過般來

より舊歲末大賣出しを開始
毎日常店頭は押すなぐの
苦悶中を旅館の女中が發

三井呉服店 大賣出しの福運者

一月十九日より五日間開催

中の大賣出しは初日早々よ
り福運者多く金解禁相場の
最安値品を豊富に取揃へ華
客の好評を博してゐるが初
日の福運者は左の如し
▲特等内郷村五十嵐炭礦
吾妻モト ▲二等永戸村
渡戸草野佐一 ▲同警崎
村藤原高橋クマ ▲同夏
井村山崎馬目繁太郎 ▲
同夏井村山崎馬目ナツ
▲同平南町原田榮吉
▲三等平町井上貞治郎 外
四十五名

横領した男 自殺未遂者の 身元判明

石城郡湯本町温泉旅館の自殺

(別項)山形屋旅館の自殺
未遂者は平署で取調べた結
果左の如く判明した
同人は滋賀縣愛知郡稻井
村字三津小林製糸株式會
社社員山本庄次郎(二九)
で會社の金を數千圓横領
費消したが最近發覺した
爲め郷里を飛び出し追手
を恐れて十六日午前十時
京都から飛行機に乗つて
東京に來り其の足下直ぐ
湯本町に赴き湯本町を徘徊
して死に場を求めたが

佛教慈善會活動

石城佛教慈善會では舊年末

の救ケツ金募集の爲平町を
初め各宗派僧侶が二十一日
總出動をなして寒行託鉢を
なす

方面共済委員會

石城方面共済委員會は二十

一日午前十時から平町訓官
院に開催舊歲末につき極貧
者救濟其の他に關し協議を
なす

今様石童丸

父を尋ねて郡山へ

石城郡湯本町澤山炭礦初
造長男吉田武は父初造が
去十日夜家を出たまま何
故か歸宅しないので母と
相談の上父を捜して十三
日家を出て十七日郡山市
へ來たが尋ねる父に逢は
ず旅費を使ひ果し郡山署
へ保護を願ひ出た

明日の天気

明二十一日は午前中晴れ

ますが午後から西北の風
で曇る見込です

体温計
寒暖計
電話四〇番

「映画欄」
1930 年を語る (三)

花形俳優快気焰の事

新春の言葉 松本三郎
とうとう昭和五年を迎へました。昨年一ヶ年間といふものは大してこれといふ自分のものでない映画がなかつたのが残念です。而しながら田三郎は何時どんな場合でも自分の努力の總てを發揮して奮闘してゐるのです。これと正視の出来ないものだらけで我ながら恥かしく存じて居ります。さうぞ今年こそはしつかりしたものを作りたいと存じます。故に「何となく御注文下さいまし、さすればその總てを有難く戴いて元日の雑煮替はりにいや酒もやめて、女もやめて、煙草もやめて、誠心誠意のお言葉を戴くことにします。これが皆様の田三やんの昭和五年を迎へた初めの言葉で御座います。

天ぶらご映畫 入江たか子
私は昨年中にロケーション先や、夜の仕事の手段に食べた天ぶらごお壽しがとうとう、好きに大好きになつて仕舞ひました。あつさりとし壽しと油つ

こいつ天ぶら取合せがお可
笑いでせうけれど、實際に好きになつて仕舞つたので、今年こそはこの天ぶらの方で映画藝術の奥妙を極め、お壽しの味で昨年よりより「作品をこしらへやうと思つて居り。

春夏秋冬、春夏秋冬、これ一九二九と一九三〇年の二年開がたつたといふわけで文字して見れば八字、誠に馬鹿々々しいものです。松本泰輔、字にして見れば僅か四字、誠につまらないものです。カクテルこれ又四字、スタヂオこれも四字、誠にくだらないことおびたしい、昭和五年、あゝもう字の数はやめた、それより一字で簡単な酒！これが今年の良友だ。

僕の正態 團 徳磨
僕を單なる性格俳優の様
に批評しざる者があるが
果して僕は謂ふ所の性格
俳優であり得るだらうか
僕は何時如何なる劇にお
いても常に自分が「役者」
であることを忘れない男
である従つて僕はその演

出に際して、決して自分の性根までその劇中の人物になり切る様な事はしない、あくまでも役者で押し行くよく映画批評家、ファンによつて彼の俳優は、劇中の人物になりきるから何うのかうのといはれてゐるが、これは甚だ皮相な見方で僕としてはもう一ツ、役者としての彼の演出価値を檢討してはしく思ふのである、要するに僕は、性格俳優といふ意味の本當は知らないが、僕自身の正体は正に「役者」である事は間違ひはない

轉居御挨拶

私儀
今般東京帝大史學教授等の研究團體たる日本歴史地理學會に勤務すべく来る二十五日午後二時十分にて東上轉居候得共毎月十五日間は來平して郷土警城及び本縣の文獻復興に一層盡瘁の候條從來の通り猶諸氏の御示教を仰ぎ度奉願候
昭和五年一月二十日
平町田町一番地
加藤家偶居に於て

諸根樟一

ユビハレ、ヤケド スズテ化膿するものを
キリキツ、淋病、梅毒 靈藥ムテキ
乳ハレ、クサ、リウマチス 切斷の苦しみをなく治す
丹波博士創製 セキトメ
うまくてセキ
ガヨクトマル
發賣元 阿康藥局
平町古鍛冶町
電話 四四番

喫茶の店
パイラークララ
洋菓子店
前平藤遠
店ンパ
番六七話電

メリヤスシャツ
一枚……一圓八十錢
ワイシャツ
一枚……一圓八十錢
ゴム靴
学生服 作業服
帽子 靴下 足袋
ネクタイ
平町五丁目
モリタヤ洋品店
電話 三五三番

洋食 美味で……お手輕
喫茶 紅茶、コーヒー、コ、ア
宴會 洋式でも日本式でも……
出前 迅速に致します
平驛前通り
こんはる
電話 六六六番

サロンのバーには
何時も生ビールが有ります
毎日變つた佛蘭西料理の御献立を
して御座います
ドーソ御試食を……
田町松月隣り
美味でさもちよいサロン
評判の
男、女、給仕人数募集
電三五二番

耳鼻咽喉科 專門
氣管食道科
平町南町
大和田醫院
入院隨意 自炊ノ便アリ
電話一七〇番

冬服御櫛心
女學生通學用オ一バ
小學生通學用オ一バ
中學生金ボタン外套
特賣
正札堂洋店
平四丁目(停車場前通)

りな命生の(ス)は捷敏實確
屋問物金 鐵銅洋和
店理代約特社會式株トンメセ城磐
店商久屋釜
番九三九電話
番九三九電話
しな略商る勝に賣廉品良